

港町としての歴史と文化・スポーツ・観光の息づくまちへ

政策2 文化・スポーツ・観光

基本的政策3

文化・芸術の振興

【SDGs17の目標】



- 1 文化芸術を担うひとづくり
- 2 市民の文化活動の環境づくり
- 3 誇りの醸成とまちの魅力向上
- 4 文化事業による魅力発信と市民の文化力向上

基本的政策4 スポーツを通じた活気あるまちづくりの推進

【SDGs17の目標】



- 1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- 2 子どもの体力・競技力の向上
- 3 大規模スポーツイベント等の誘致
- 4 スポーツイベントによる地域活性化
- 5 安全で快適なスポーツ施設の整備

基本的政策5 交流を生み出す新たな四日市流都市型観光

【SDGs17の目標】



- 1 誘客につながる多様な資源の活用
- 2 「来てもらう」きっかけとなる情報発信とおもてなしの充実

1 目指す姿

- (1) 未就園・未就学のときから文化芸術に触れる機会があり、次世代の文化芸術の担い手が育つ環境が整っている。
- (2) 市民誰もがライフステージに応じた文化活動に取り組んでおり、文化施設も活発に利用されている。
- (3) 地域の伝統的な文化遺産が適切に保存継承されている。
- (4) 本市の文化の魅力を市内外に十分に発信することで都市のイメージが向上し、市民が誇りに思っている。

2 現状と課題

(1) 文化芸術に関する活動者や鑑賞者の減少

近年、文化会館の利用者数、施設区分利用率※ともに減少を続けています。

趣味嗜好の多様性や活動形態の多様化とあわせて、文化芸術活動者の高齢化も原因のひとつと考えられることから、文化を継承していく担い手の育成が求められています。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者数(人)	452,112	444,432	396,654
施設区分利用率(%)	62.8	60.7	57.5

※1日を午前・午後・夜間の3区分にした場合の利用率

文化会館の利用者数・施設利用区分率(過去3年度)

(2) 文化施設の維持更新と文化活動の発表をしやすい場の不足

本格的なホールを備える文化会館は昭和57年に開館して以来、本市の文化の拠点施設として広く市民に親しまれています。施設の長寿命化を図るとともに、市民が誇りを持てる文化施設として、持続可能な市民サービスの提供を目指し、計画的な設備の更新等に取り組む必要があります。

一方、市民が文化活動を行う場としては、三浜文化会館の開館などにより練習を行うための施設では一定の充足が見られますが、発表活動を行うために利用しやすい規模の施設が不足しています。

(3) 伝統文化の保存継承

本市には地域で大切に守り継がれている獅子舞や鯨船行事などの無形の民俗文化財や建造物や仏像などの有形文化財が多数あります。しかし、無形文化財では多くの地域で、担い手不足による保存継承が危惧されています。四日市の誇りとして魅力を発信するとともに、次世代へ引き継いでいくための担い手育成などの支援が必要となっています。

(4) 文化の魅力を発信する事業の実施

伝統的な文化行事をはじめとする市内のさまざまな芸能が一堂に会する「郷土が誇る芸能大会」、家族と絆をテーマに全国公募で開催する「全国ファミリー音楽コンクール」、中心市街地の10数か所を会場に音楽があふれる「四日市ジャズフェスティバル」は、いずれも平成24年に初開催して以来、継続して実施している文化事業です。

こうした取組により、都市イメージの向上と四日市の名を全国に知らしめるシティプロモーションと市民への文化の効用をより充実させる必要があります。

3 展開する施策

(1) 文化芸術を担うひとづくり

- ① 子どもが未就園・未就学のときから文化に親しむきっかけとなる機会を提供することにより、次世代の文化芸術の担い手を育むとともに、豊かな感性や創造性、コミュニケーション能力のある子どもの育成にもつなげます。 **重点 P 24**
- ② 市民の多様な文化活動をより一層推進するために、きめ細かな相談対応や事業の調整、人材のマッチングなどを担う人材を育成するとともに、多様な人が文化に興味を持ち、参画できるような仕組みを構築します。



音楽家による学校訪問事業の様子

(2) 市民の文化活動の環境づくり

- ① 将来にわたって誰もが快適に、かつ安全安心に利用できる施設として、設備更新をはじめ、アセットマネジメントの考え方に基づく計画的な修繕・更新により、施設・設備の長寿命化を図ります。
- ② 市民の多様で活発な文化活動を促し、文化を創造する環境づくりを推進するため、音楽や演劇、舞踊等の舞台公演に必要な音響等の舞台装置を備えた市民グループが利用しやすい規模のホールを整備します。



小規模文化ホールの例

(3) 誇りの醸成とまちの魅力向上

- ① 市内の有形無形の文化財を調査・整理し、市指定文化財「旧四日市市役所四郷出張所(四郷村役場)」のような核となる文化財を周辺の地域資源と関連づけて保存・活用していくために、文化財保存活用地域計画を策定し、地域の活性化につなげていきます。



- ② 地域の文化遺産を将来にわたって地域で継承できるよう、保存継承団体のネットワークづくりによるノウハウや人材育成手法などを共有することで、保存会単体でなく力を集めた継承に取り組み、豊かなまちづくりと地域への愛着や誇りの醸成を図ります。
- ③ 地域の文化遺産を観光資源としての活用にもつなげられるよう、将来にわたり適切に保存継承していく構想について調査検討を行います。

(4)文化事業による魅力発信と市民の文化力向上

- ① 全国公募の音楽イベントや地域の多様な芸能など市民の文化力に光をあてたイベントの開催により、市民が文化に親しむ場を提供するとともに、本市の文化の魅力を市内外に発信し、シティプロモーションにつなげます。
- ② これまでに築いた音楽家とのネットワークを活用し、スキルアップを支援する事業等を充実させ、市民の文化力の向上を図ります。

市民・事業者等が取り組んでいくこと

- ・文化・芸術を享受する権利を大切にします。
- ・文化の担い手として自主・自発的、多様で創造的な文化活動を行い、分野や世代を越えた交流を行います。
- ・市民と市とが互いの役割を理解し合って文化を振興し、まちの魅力向上を目指します。

4 進捗状況を測る主な指標

指標	説明	現状の値	目標値 方向性
文化会館及び三浜文化会館における練習室等の利用者数	文化芸術活動者の増加を図るため、文化会館及び三浜文化会館における練習室等の利用者数を増加させる。	117,242人 (平成30年度)	123,000人 ↑
文化事業の後援件数	発表の場の整備により、市民の文化活動の成果を発表する事業が増加し、市の後援件数も増加する。	123件 (平成30年中)	年間150件 ↑

高校生からの
メッセージ
**四日市市の
ミライ**

平成31年2月開催

「高校生と市長との懇談会」の参加者より

四日市の良いところや四日市の将来のまちづくりについてメッセージをいただきました。

その3



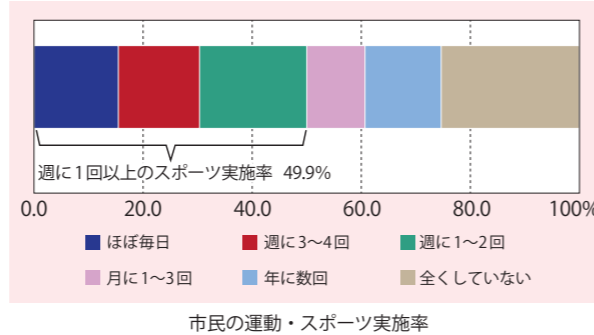
1 目指す姿

- (1) 運動・スポーツを「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも」、「する、観る、支える」ことができ、体づくり、健康づくり、仲間づくりや生きがいに組み込み、活力ある生活が実現できている。
- (2) プロスポーツイベントや全国大会等、市内で様々な大規模スポーツイベントが開催され、市外から多くの参加者、観戦者が本市を訪れ、まちに活気や豊かさが生まれている。

2 現状と課題

(1) スポーツニーズの多様化

近年、健康の維持増進への関心の高まり、余暇時間の過ごし方の多様化、高齢化の進展等による生涯スポーツの重要性が高まっており、多様化するスポーツニーズに対応した支援や環境整備を推進していく必要があります。



(2) 子どもの運動・スポーツ実施の二極化

心身の成長に重要である運動・スポーツですが、運動する場やきっかけが不足しており、する子どもとしない子どもの二極化が見られます。家族・地域・学校が一体となって、子どもの頃から運動・スポーツに取り組む工夫と環境づくりが求められます。

(3) プロスポーツ等トップアスリートに触れる機会の不足

運動・スポーツをしない市民のスポーツへの興味や関心を高めるため、トップアスリートによる魅力的で高度なプレーを目の前で観戦できるプロスポーツ等の機会の確保が求められます。

(4) スポーツ機運の高まりや新施設への対応

東京オリンピックカナダ体操チーム事前キャンプや三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催によるスポーツ機運の高まりや新施設を効果的にスポーツ振興につなげていくことが求められます。

(5) スポーツ活動環境の確保

市内スポーツ施設の多くは、築後約40年が経過し老朽化が進んでいます。スポーツの実施率向上のために安全に活動できる場としての整備、機能強化等を計画的に行う必要があります。また、地域スポーツの拠点である学校の運動施設は、利用可能な時間が限られている等様々な状況があり、より効率的な活用が求められます。

3 展開する施策

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

- ① 年齢、性別や障害の有無等に関わらず、市民の誰もが、運動・スポーツに親しみを持てる場を提供するため、市民スポーツフェスタや各種スポーツ教室等を開催するとともに、総合型地域スポーツクラブの活動への支援拡充、ニュースポーツの普及促進に取り組みます。
- ② スポーツ実施率の向上及び心身の健康増進を推進するため、民間事業者を含む関係機関と連携し体組成計測、体力測定やトレーナー等による運動・スポーツの相談等ができる体力測定会の定期的な開催に取り組みます。 **重点 P 49**

(2) 子どもの体力・競技力の向上

- ① 子どもの体力向上には、幼児期から体を動かした遊びに取り組む習慣を身に付けることが重要であるため、幼児教育・学校教育と連携して、運動・スポーツの楽しさや喜びを知ってもらう取組を推進します。 **重点 P 24**



スポーツ能力測定会

- ② 自分に適したスポーツ種目を判定するスポーツ能力測定会等の実施とともに、親子や保護者が参加する取組を推進します。

- ③ 競技力の向上を図るため、指導者の養成及び指導力の強化、スポーツ団体の育成指導、全国大会等の出場者に対する支援に取り組みます。

(3) 大規模スポーツイベント等の誘致

- ① 多くの市民がトップレベルのプレーを観る機会として、積極的に大規模スポーツイベントの誘致に取り組みます。さらに誘致を推進するため、プロスポーツイベント、スポーツ合宿等スポーツイベント対象の支援制度の新設、各種競技に応じた施設整備やスポーツ施設の周辺環境整備に取り組みます。



四日市市総合体育館

- ② プロスポーツ興行を前提とした施設や広域的な施設の整備について、関係機関に働きかけ、誘致に努めます。

(4) スポーツイベントによる地域活性化

- ① 新施設や東京オリンピックカナダ体操チーム事前キャンプ、三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催によるスポーツ機運の高まり、ボランティアの養成といったレガシー(遺産)を、更なるスポーツ推進により次世代へ継承できるよう取り組みます。
- ② ハーフマラソン等県外からの参加者も期待できるスポーツイベントの開催について、本市のまちの魅力の発信、地域活性化による経済効果、スポーツ参画人口の拡大等につな



がるように関係機関と連携し取り組みます。重点 P54 また、スポーツによる持続的なまちづくり、地域活性化に向けた地域スポーツコミッション設立の研究に取り組みます。

- ③ 本市に対する誇りや愛着を醸成し、スポーツ文化の定着、スポーツを通じた地域振興や情報発信による元気なまちづくりを目指すため、広く市内外での活躍が期待できる市内のスポーツ団体との間で連携協定の締結に取り組みます。

(5)安全で快適なスポーツ施設の整備

- ① 三重とこわか国体・三重とこわか大会開催に向け、円滑な運営に資するよう、本市開催競技会場を着実に整備します。
- ② 既存の野球場、テニスコート、四日市ドーム及び温水プール等の大規模改修を実施するとともに、アセットマネジメントの考え方に基づく既存施設改修時には、バリアフリー化やLED照明化を推進し、利活用促進や長寿命化を図り、施設の安全・安心、快適性の向上に取り組みます。
- ③ 平日の昼間に活動することが難しいため、スポーツ実施率の低い社会人等の利用促進を図るため、地域の運動・スポーツの拠点である学校の運動施設への夜間照明設備の整備に取り組みます。

市民・事業者等が取り組んでいくこと

- ・心身の健康を意識し、「する、観る、支える」スポーツに自主的に取り組みます。
- ・活力向上のため、ハーフマラソン、国体等のボランティアとして、大会運営に参画、協力します。

4 進捗状況を測る主な指標

指標	説明	現状の値	目標値方向性
市民の週1回以上の運動・スポーツ実施率	運動・スポーツの習慣化事業に取り組むことにより、運動・スポーツ実施率を向上させる。	49.9% (平成28年)	65% ↑
スポーツ施設利用者数	スポーツ施設の整備や大規模スポーツイベント等の誘致を図り、施設利用者数を増加させる。	1,140,951人 (平成30年)	1,300,000人 ↑



平成31年2月開催

「高校生と市長との懇談会」の参加者より

四日市の良いところや四日市の将来のまちづくりについてメッセージをいただきました。

その4



1 目指す姿

(1)本市「ならでは」の観光資源や市民・事業者・行政によるおもてなしにより、多くの人を訪れるまちとなっている。

2 現状と課題

(1)立地優位性と多様な地域資源の活用

本市は、臨海部の工業集積、中心部をはじめとする市街地、計画的に保全されてきた豊かな自然環境と都市・産業基盤など、多くの資源に恵まれており、また、交通の要衝としての立地優位性や歴史・伝統に培われた地域資源があります。

一方で、保養、遊覧を目的とした旅行者等で常時人が集ういわゆる“観光地”としての地域特性が弱く、「三重県・名古屋都市圏・首都圏在住者による都市に対するイメージ調査」(平成29年実施)においても、首都圏の約8割、名古屋都市圏の約4割の人が本市を訪問したことがないという結果が出ています。

(2)「来てもらう」きっかけづくり

近年、外国客船の訪日クルーズが増えるとともに、中部国際空港のLCC(格安航空会社)向け新ターミナルのオープンにより、国内外からの中部圏を訪れる来訪者が、今後ますます増加する傾向にあります。さらに、2027年にリニア中央新幹線が開通し、東京-名古屋間が約40分で結ばれることで、首都圏から中部圏への交通利便性が飛躍的に高まり、ビジネスによる来訪頻度や観光客の増加に期待が高まります。

このような潜在的来訪者に対して、本市の情報や魅力の効果的な発信、市民・事業者等のおもてなし意識の醸成を図ることで、来訪者を増やし、新たな交流を生み出す仕組みを創り出す必要があります。



コンビナート夜景



ボランティアによる外国客船のおもてなし

3 展開する施策

(1)誘客につなげる多様な資源の活用 **重点** P55・56

- ① 今の四日市を創り上げる礎となった港や定期市、やきもの産地やユネスコ無形文化遺産登録された伝統行事など本市ならではの歴史・文化資源の活用に加え、地域に眠る資源の掘り起こしや磨き上げなど、新たな都市型観光の創造に向けた取組を、官民一体となって進めます。また、ICTなど最先端の技術を活用したイベント・競技の開催や情報発信など、若者が楽しさや新しさを体験できるまちを目指します。
- ② ビジネスなどで本市を訪れる来訪者に対して、「夜も楽しめるまち」として飲食に加えて、コンビナート夜景などの体験型コンテンツを充実させていきます。また、高速道路や鉄道といった交通利便性の強みを生かし、来訪者が周辺地域へ出向く際の出発地、あるいは中継地、もしくは周辺地域に出向いた後の目的地として、いずれの場合にも本市に滞在してもらえるような仕組みづくりや環境整備に取り組みます。
- ③ ビジネスやスポーツなどで本市を訪れる人に向けて、伝統と技術が受け継がれてきた地場産品や豊かな風土の中で育まれてきた特産品など、地域ブランドを用いた新たな四日市土産を生み出す仕組みづくりを行います。また、この四日市土産を中心市街地や高速道路SA・PA等において販売できる仕組みを構築します。
- ④ 海・山・川など自然に恵まれた環境を生かし、若者世代やファミリー層などが仲間できれいに集い、快適な屋外レジャー活動を楽しめるよう、ニーズの把握や既存施設の機能向上など、誘客につなげるための手法について検討します。

(2)「来てもらう」きっかけとなる情報発信とおもてなしの充実

- ① 本市への誘客を促すため、旅行会社や交通・輸送事業者などと連携した観光キャンペーンを展開します。さらに、フィルムコミッションを通じた広報活動や、テレビ・ラジオをはじめ様々なメディアを活用した取組など、幅広い情報発信を行います。
- ② 市民、事業者等、NPOなど多様な主体が参画・連携し、おもてなし意識の醸成に資する取組を行うとともに、コンビナート夜景などの観光ガイドやボランティアの人材発掘を行います。あわせて、国内外からの来訪客を円滑に案内できるよう、民間と協働し、四日市流の観光まちづくりを行う組織について検討を行うほか、情報の一元化・多言語化や案内サインの図記号化、公衆無線LANの整備によるインターネット環境の利便性向上など、受入基盤の充実を図ります。



市民・事業者等が
取り組んでいくこと

- ・歴史や文化、自然、食べ物など、四日市が持つ地域資源を、それぞれの主体が様々な手段で情報発信します。
- ・市民一人ひとりが、もてなしの担い手として、来訪者にまた来たいと思ってもらえるよう接します。

4 進捗状況を測る主な指標

指標	説明	現状の値	目標値 方向性
年間入込客数	本市観光・レジャー施設等のほか、イベント等による年間の来訪客数	805,511人 (平成30年)	1,000,000人 ↑

高校生からの
メッセージ

四日市市の ミライ

平成31年2月開催

「高校生と市長との懇談会」の参加者より

その5

四日市の良いところや四日市の将来のまちづくりについてメッセージをいただきました。

